

音楽科学習指導案

指導者 赤坂 裕子

1. 日時 平成22年11月2日(火) 6校時
2. 学級 2年4組(男子18名 女子19名 計37名) 第1校舎4階 第1音楽室
3. 題材 合唱表現の工夫 [教材]『予感』『YELL』『翔る川よ』『時の旅人』

○ 題材の目標

声部の役割や曲想を感じ取って合唱表現する能力を高め、合唱を愛好する態度を育てる。

4. 題材について

(1) 題材について

音楽科の学習では、2学期に行われる文化祭に合わせて、様々な合唱曲を題材にして「表現の工夫」に取り組んでいる。曲にふさわしい表現方法を、生徒が自ら考え工夫していくという経験は、生涯にわたって音楽を愛好していく心情をはぐくむことにつながるものである。

本題材は、学習指導要領の以下の内容について指導するものである。

A表現(1) 歌唱の活動を通して、次のことを指導する。

- ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。
- ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら歌うこと。

[共通事項] ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

(2) 生徒について

合唱に対して関心が高く、明るい表情で素直に歌う生徒が多い。また、楽譜を読むことができる女子生徒が先頭に立ち、学級全体でよりよい音楽を追求しようとする雰囲気がある。

本題材では、強弱や速度などの表現のポイントを確認しながら、新たなポイントに気づかせ、工夫をしていくことで、音楽の基礎的な力を高め、より音楽的な表現をつくる喜びを体験させたい。

(3) 指導について

『予感』『YELL』『翔る川よ』については、いずれも合唱コンクールで歌う合唱曲として、「強弱・速度」を中心に、表現のポイントについて繰り返し学習してきた。

『時の旅人』(深田じゅんこ作詞 橋本祥路作曲)は、現在から過去、そして未来へと風によってタイムスリップしながら、生きる喜びや未来への希望を歌い上げた合唱曲である。また、転調による場面の変化や強弱・速度による曲想の変化など、曲の構造が明確であり、多様な表現が要求される名曲である。この曲を扱うことにより、多様な表現のポイントに気づかせ、合唱表現を工夫する題材のまとめとしたい。

5. 指導と評価の計画（別紙）

6. 本時について

(1) 本時の目標 ・ 歌詞の抑揚を生かした表現を工夫することができる。

(2) 本時の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫
具 体 の 評 価 規 準	A 歌詞の抑揚と歌い方に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。	A 歌詞の抑揚と歌い方を感じ取り、合唱表現を工夫している。
	B 歌詞の抑揚と歌い方に関心を持ち、表現しようとしている。	B 歌詞の抑揚と歌い方を感じ取り、合唱表現をしている。
	Bに至らない生徒への援助 発言をさらにわかりやすく補助説明するなどの配慮をする。上位な生徒のそばに席を置き、授業に意欲的に取り組むことができる環境をつくる。	

7. 本時指導の構想

(1) 指導構想

本時は、中間部分にある[語るように歌う]場面を取り上げ、合唱表現を工夫する授業である。[語るように歌う]ためには、歌詞をどう歌うかが課題である。まず、歌詞を文節という短い単位に区切り、その中にある抑揚（どこが高く、どこが低いのか）に気づかせたい。さらに、文章全体としての大きな抑揚も考えさせたい。また、歌詞の抑揚と音程の変化や歌詞とリズムが一致していることにも気づかせ、歌詞の抑揚を生かした歌唱表現を、より深めることをねらいとする。

(2) よく考え、伝え合う活動について

表現を工夫するとは具体的にどのようなことなのか、具体的な言葉による発言と実際の合唱表現で伝え合いたい。また、お互いの発言や実際の合唱表現を聴き合うことで、様々な考えを理解・共有し、音楽に対するイメージの世界が広がるものとする。

8. 本時の展開

段階	過程	学習活動	「よく考え、伝え合う活動」を通して、ねらいにせまるための手だて	
			評価の視点【方法】	指導上の留意点【資料・教具等】
導入 10分	課題把握	1. チャイム合唱をする。 ・生徒指揮 2. 表現のポイントについて復習をし、学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 歌詞の抑揚を生かした表現をしよう。 </div>		1. 気持ちを声にのせるように声をかける。 2. 「翔る川よ」「予感」など、これまでの学習から表現のポイントについて復習させる。
展開 35分	課題追求	3. 「汗をぬぐって歩いた道・・・」歌詞に注目して、言葉の抑揚について考える。 ①文節に区切る。 ②文章全体を読む。 ⇒①文節②文章の、どこに重心があるかを考える。 4. 歌詞と旋律が、どのように関連しているかを考える。 ①言葉とリズムの関係 ②歌詞の抑揚と音程の関係 5. 気付いたことを生かして、「語るように歌う」というフレーズの歌い方を工夫する。	3. <音楽への関心・意欲・態度> 歌詞の抑揚と歌い方に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。 4. <音楽表現の創意工夫> 歌詞の抑揚と歌い方とのかかわりを感じ取って、表現を工夫している。	3-1. 「語る」ためには、言葉の持つ抑揚や区切りが大切であることに気づかせる。 【拡大歌詞】 3-2. <u>言葉の抑揚、文章の抑揚として、強く読む場所を理解し、発表させる。</u> 4. <u>音符の動きを目で見たり旋律を歌ったりしながら、言葉の抑揚と音程の変化、リズムの関係性に気付かせる。</u> 【拡大譜】 5. <u>各パートなど形態を変えながら、全体で表現を工夫させる。</u> ★速度を落として歌う。
終末 5分	まとめ	6. 本時の学習を振り返り、学習したことを生かしたまとめの合唱をする。		6. 歌詞の抑揚を生かした表現について振り返り、これまでの合唱曲の表現にあてはめたり、今後の音楽活動に生かしていくことを話す。